

## 4. その他

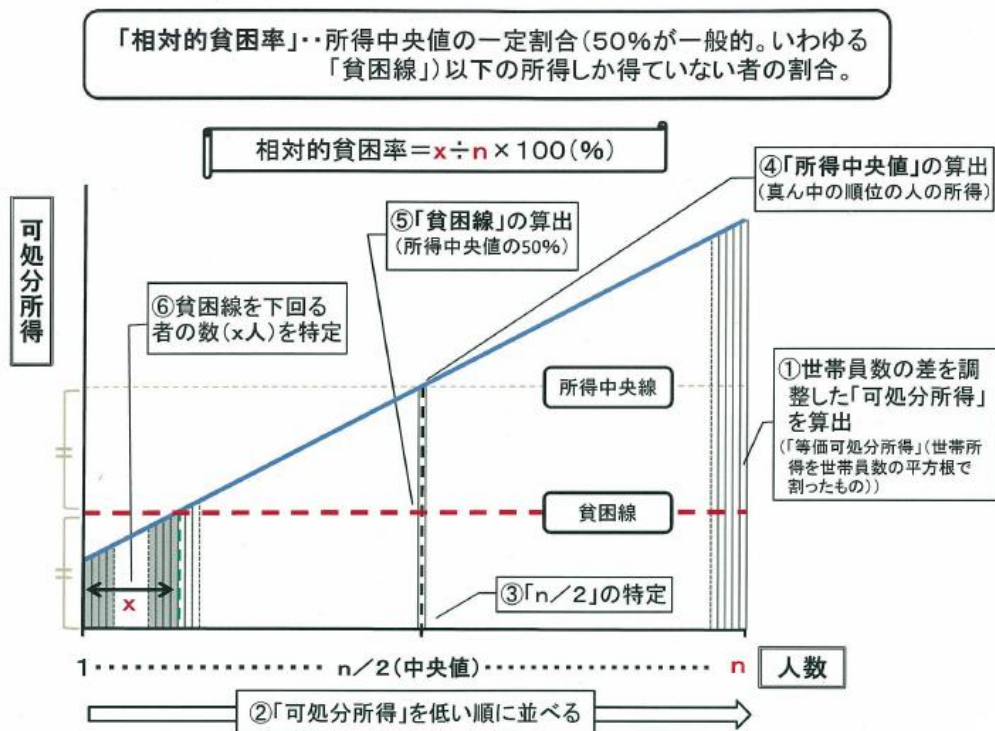
### ● 相対的貧困率

所得格差をみる指標として「相対的貧困率」があります。

OECD（経済協力開発機構）の作成基準では、

- ・相対的貧困率：等価可処分所得の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯員の割合
- ・等価可処分所得：世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得
- ・可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入となります（下図を参照）。

相対的貧困率の概念図



資料：厚生労働省

政府統計のうち相対的貧困率を算出しているのは、総務省「全国消費実態調査」と厚生

労働省「国民生活基礎調査」です。

平成 21 年全国消費実態調査では、全国の相対的貧困率は 10.1%と公表されています。

総務省のホームページで公表されている平成 21 年全国消費実態調査の統計表から、等価可処分所得の代わりに年間収入を、世帯員の代わりに世帯を用い、愛知県の相対的貧困率を簡易的に算出すると、9.0%となります。

同様の簡易的方法で算出した平成 21 年全国消費実態調査による全国の相対的貧困率は 10.8%です。公表値 10.1%と誤差がありますが、愛知県は全国より所得格差が小さいといえそうです。

平成 21 年全国消費実態調査による相対的貧困率

	全国 (公表値)	全国 (簡易的方法)	愛知県 (簡易的方法)
相対的貧困率	10.1%	10.8%	9.0%

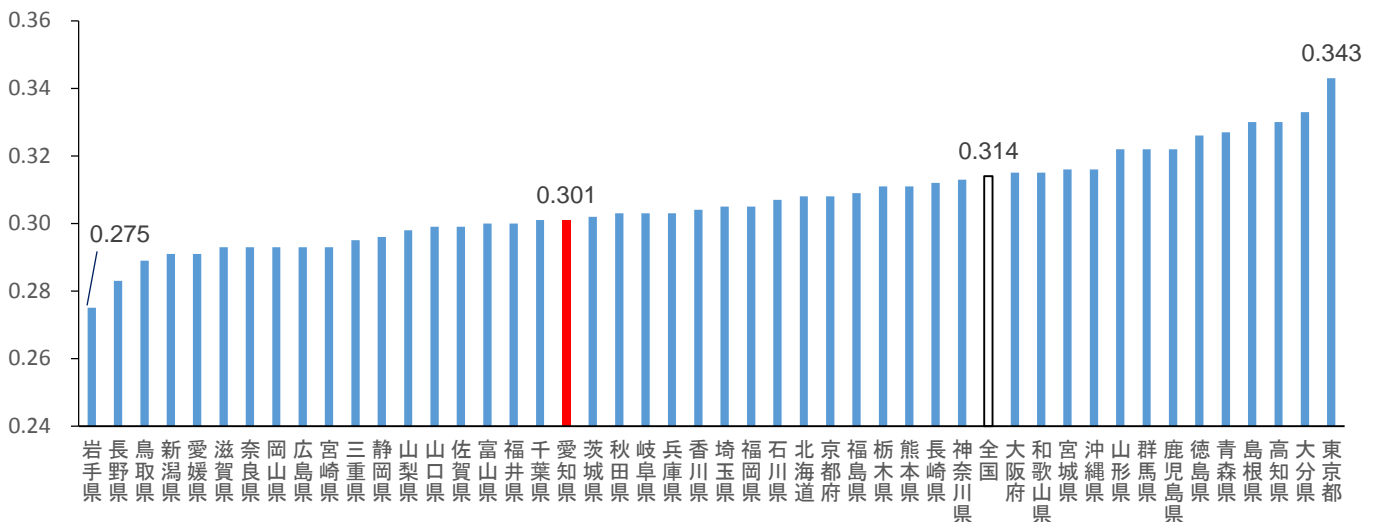
## ● 年間収入の世帯間格差

図は、都道府県別の年間収入のジニ係数と、愛知県及び全国の年間収入のジニ係数の推移をみたものです。ジニ係数は年間収入等の分布の均等度を表す指標であり、0は均等を示し、1に近づくほど不均等となります。

ジニ係数が最も低いのは、0.275の岩手県で、愛知県は0.301で全国第19位です。全国は0.314であり、愛知県は全国より低い値となっています。

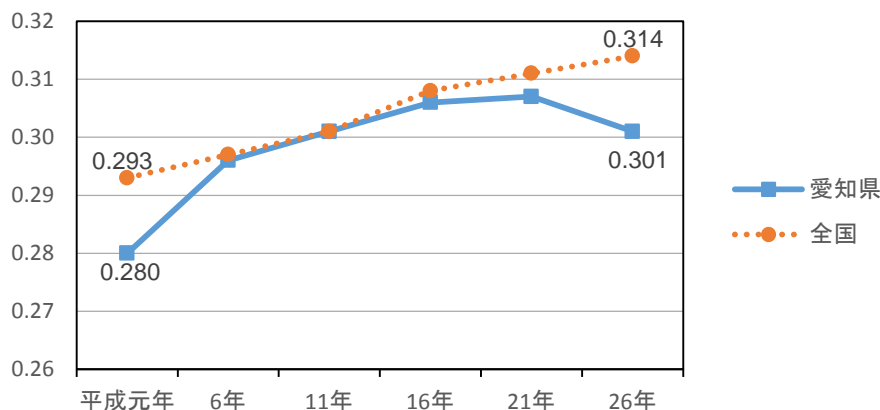
平成元年から平成26年まで5年ごとのジニ係数の推移をみると、平成21年までは愛知県、全国ともに上昇していましたが、平成26年は全国のジニ係数が上昇した一方で、愛知県のジニ係数は低下しました。

平成26年 都道府県別年間収入のジニ係数（二人以上の世帯）



資料:総務省「平成26年全国消費実態調査結果」

年間収入のジニ係数の推移（二人以上の世帯）



資料:総務省「平成元年全国消費実態調査結果」「平成6年全国消費実態調査結果」「平成11年全国消費実態調査結果」「平成16年全国消費実態調査結果」「平成21年全国消費実態調査結果」「平成26年全国消費実態調査結果」